



創業140余年 江戸本染ゆかた・手拭い發賣元

とだやひょうてん
梨園染 戸田屋商店

伝統工芸へのこだわり 《注染ちゆうせん》

伝統工芸である注染は、多くの職人の手によって支えられてきました
ゆかた・手拭いには職人の長年にわたる経験と磨かれた技が注ぎ込まれています

手ぬぐい出来るまで

1 板場 (いたば)

彫師の型紙を木枠に留め、海草糊を柄に合わせて調節する

- A 糊は柄・気候により微妙な調節が必要となる。
- B 形紙には絵師・彫師・紗張師という職人達が携わっている。

型置

- C 板場の職人が型紙の上から糊を引き、
- D 生地をのせる。
再び糊を引き、約1mで生地を折り返してのせる。
これを24m繰り返してゆく。

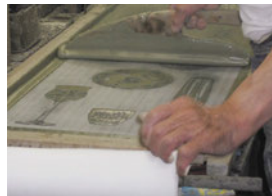
この際、少しでもずれてしまうと染め上がりに影響がでる為、熟練した業が必要となる。



A 海草糊



B 形紙



C 糊を引く



D 生地を折り返す

2 紺屋 (こうや)

色を調合していく

色の調合は工場がそれぞれ長年培ってきた経験が要となる。

染色

- E 紺屋の職人が型置した生地の上から、やかんで染料を注ぎながら、コンプレッサーで下から吸引していく。
裏面も同じように繰り返す。
- F 差し分け・ぼかし・抜染など職人の技で、美しい色合いのゆかたや手ぬぐいに仕上がっていく。



E 染色

やかん



F 差し分け・ぼかし

3 水元 (みずもと)

糊を水で洗い流し、だてで干す

- G 工場の上にあるだてに干す。
風にたなびく手ぬぐいは日光を浴びて鮮やか。

ローラーに通し、しわを伸ばす。

これを一本一本カットし、柄に合わせて畳んで完成



G だて



染めあがり